

地域の底力を信じ、市民一人一人をローカルヒーローに!

ながののNPOと市民をつなぐ機関誌

特集

「社会への想い」を届ける 遺贈寄付

- まんまるニュース
- Myストーリー 豊野まちづくり委員会 委員長 平澤 薫里さん
- ねぼが行く! 突撃となりのNPO 西後町テレビ
- お宝ざくざく地域を掘り起こせ! 三輪地区・グリーンヒルズ小学校
- まんまるイベントスケジュール

まんまる



グリーンヒルズ小学校の児童たち
※詳しくはP7をご覧ください

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

まんまるはSDGsを推進しています

2023
秋号

No.38

特集

「社会への想い」を届ける遺贈寄付

市民活動を行う上で障壁となるのが活動資金の問題。資金調達方法はさまざまですが、その一つに「遺贈寄付」という選択肢があるのを知っていますか？受け取る側は資金を得られ、寄付する側は活動を応援することにつながります。

「人生最後の社会貢献」と言われる「遺贈寄付」について特集します。

そもそも「遺贈」って何？

成迫会計グループ 相続手続支援センター[®]

相談員 宮崎忍さん

「遺贈寄付」を知る前に、「遺贈」とは何かについて相続手続きの専門家・宮崎忍さんに聞きました。

Q1

遺贈とはどんな制度なのでしょう？

遺言^{ゆいごん}によって自己の財産の権利・利益を他人（受遺者）に与える行為のことです。「相続」は法定相続人に財産を与える行為なのに対し、「遺贈」は法定相続人以外の人や法人に財産を与える行為です。

Q2

遺贈のメリットはどんな点ですか？

財産を遺したい人に遺せる点です。例えば、法定相続人が子の場合、子の配偶者や孫は相続できません。でも、「孫に遺したい」「介護をしてくれたお嫁さんに遺したい」というケースもあります。その場合に使うのが遺贈です。

また、生前お世話になった病院や施設などへ、寄付という形で遺すこともできます。このように、社会貢



献活動に役立てることを目的として、遺言によって遺産の一部または全てをNPO法人、公益法人などの団体に譲ることを「遺贈寄付」といいます。

Q3

遺贈を行う手順を教えてください。

- 一般的に以下のような手順になります
- ① 受遺者、寄付先の決定
 - ② 遺言執行者の決定
 - ③ 遺言書の作成
 - ④ 遺言の執行

Q4

遺贈の際の注意点がありますか？

遺言執行者を設定しておかないと相続手続時に相続人全員の承諾が必要となる点、「遺留分」に注意する点、税制などです。

Q5

どんな人が相談に来るのでしょうか？

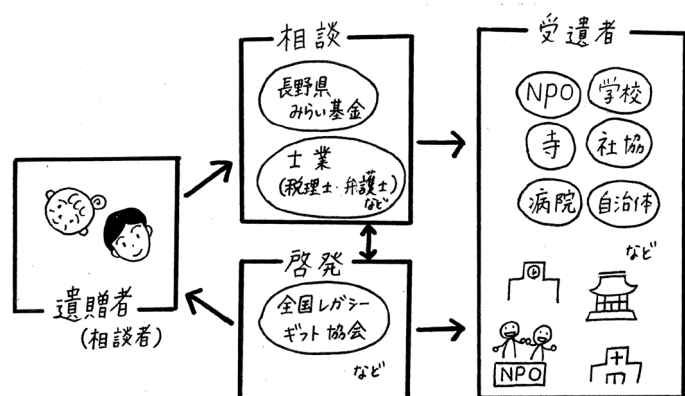
遺留分とは、被相続人（財産を遺す人）の配偶者・父母・子などの法定相続人に最低限保障されている遺産取得分のことで、遺言がこれを侵害している場合には侵害額を請求される可能性があります。

遺贈寄付の場合は原則非課税です（※要件あり）。一方で、現金化されていない資産を受け付けている団体は限られているため注意してください。

Q6

「遺贈寄付」が広まるためには何が必要でしょうか？

私たちが遺贈寄付の相談を受ける際、相談者が寄付先を明確にしている場合を除き、主にインターネットを使って寄付先を探します。そのため、ホームページがない団体や小さな団体が対象になりにくいというのが現状です。個人と寄付先をつなぐような情報網があれば、必要などころに寄付を届けることができると感じています。





「具体的に相談できる先が必要」と、信託銀行で相談を受けていた齋藤弘道さんや弁護士、税理士などが中心となり、2016年に全国レガシーギフト協会を

浸透しているとは言い難い状況です。

啓 発

みんなが幸せになる財源に

一般社団法人 全国レガシーギフト協会

理事 齋藤弘道さん

現在、日本では年間約50兆円の相続が発生しています。60歳以上を対象とした日本財団の意識調査では、調査対象者の23%が遺贈寄付をした意向がある一方、実際に遺言を書く人は3.5%と、遺贈寄付が

設立。当協会では、9月13日の「国際遺贈寄付の日」を含めた一週間を「遺贈寄付ウィーク」とし、遺贈寄付の価値や可能性についての理解を深めるキャンペーンを実施しました。

齋藤さんは遺贈寄付が浸透しない理由として、「遺贈寄付にお金持ちがやること」という思い込みを指摘。その上で、「独身や子どもがいらない人も増えており、遺言を作つて亡くなった後の財産の行き先について意思表示をすることが大切」と話しました。

また、寄付先とのマッチングにも課題があると言います。市民はもちろん、相談を受ける専門家も寄付先になりうるNPOなどを見つかるのに苦労します。「NPO側も受入体制の整備が必要。日頃から勉強してリスクを理解し、その上で団体としてどうしたいのか意思表示をしてほしい」と話しました。

最後に目指す未来を尋ねると、「寄付したい人が気軽に遺贈寄付を選択できる世の中になってほしい。社会みんなの幸せの財源になれば」と遺贈寄付の可能性について話しました。

受遺者

自分の人生とお金に向き合う

NPO法人 ライフデザインセンター

代表理事 小川和子さん

ライフデザインセンターは、老後の住まい、介護、財産管理、遺言などの相談にきめ細かく対応できるよう専門家ネットワークを構築し、2001年からNPO法人として活動しています。

「ここを訪れるのは『人に迷惑を掛けたくない』と、思っている人がほとんど」と代表理事の小川和子さんは話します。日本では民法で法定相続人が定められています。最近では「おひとりさま」と呼ばれる独身高齢者が増加している背景もあり、「子どもがいらない」「親しくしている親戚がない」といった理由で遺贈を考える人も増えていきます。

そうした中、同法人に対して「恩送り」という意味合いで遺贈寄付をする利用者もいます。金額は大きいものばかりではないものの、活動資金に占める割合は約4割に上り、「遺贈寄付がなければ、NPO法人

としての経営は厳しい」と言うくらい大きな資金源です。こうした寄付によって経営が成り立つと同時に、安価で相談ができる環境を整えることができます。

小川さんが利用者の終活に寄り添う中で感じていたのは、「どう生きたいのか」に向き合うのは早い方がいい」ということ。「自分が社

会に対して何ができるかを視野に入れて生きること、お金の使い方も変わってくる。子どもの頃からお金の知識を正しく学び、自分や周りのために生きたお金の使い方をしてほしい。そして、お金の循環の手段に遺贈寄付という選択肢があることも知ってもらえたら」と話しました。



相談・分配

普段の寄付の延長線上に

公益財団法人 長野県みらい基金

理事長 高橋潤さん

公益財団法人長野県みらい基金は、寄付者とNPOをつなぐ「長野県みらいベース」を運営し、より良い社会を創るために活動するNPOなどへの寄付金を

集め、助成しています。数年前、市内に住む女性から「視覚障害者支援をしている団体に寄付をしたい」という要望を受けました。寄付に向けて話が進ん

でいったものの、個々の団体への寄付は、手続きの煩雑さや選定の難しさ、団体側の受け入れ体制の不整備などの課題がありました。そのため、寄付を集めて配分する当法人への遺贈寄付が決まりました。

その後、この女性の遺贈寄付を原資に「信州eye基金」を設立。これは、県内で視覚障害者の学びや暮らしを応援する非営利活動団体へ助成するもので、初年度の2022年は、触れる教材の研究グループや全盲の生徒の学習環境整備を希望する普通高校PTAなど11団体に計510万円を助成しました。「助成により、一人ひとりの元気・生きる力を育てることができたら、遺贈寄付をした女性も喜ぶのではないかと」、寄付者の想いを大切にしながら、基金の制度を丁寧に創っていきましました。

長野県で毎年国庫に帰属する遺産は約8億円と推定されます。高橋さんは、難しいと思われるがちな遺贈寄付について、「どこかに現金寄付をしたり、自分の持つ土地を地域のNPOに貸し出してみたりと、元氣なうちから寄付にチャレンジ

してみる。それにより、自分が元気づけられたりもつと使ってもらいたいと思ったりしたら、遺贈寄付も視

野に入れてみる。普段の寄付の延長線上に考えていけば、ハードルは下がるかもしれない」と話しました。

受遺者 困りごとを

テクノロジーで解決

AT&D Lab. (長野工業高等専門学校)

教授 藤澤義範さん

10年ほど前から障害のある人に役立つ支援機器の開発に取り組んでいる藤澤義範さん。長野市ユニバーサルマップ作りに関わり、障害者と一緒に活動すること

が出ないため企業が乗り出すことはほぼないです。利益が出ない地域の困りごとを担うのは地域の学校の役目」との思いから、長野工業高等専門学校内にある研究室「AT&D Lab.」では特別支援学校とつながり、支援機器の開発体験ワークショップを開催しています。その中で、点字を

「支援機器の開発は利益

学習する環境が整って

いないことを知りました。児童が初めて点字

を学ぶ場合、点字を打ち、紙に印刷し、凹凸

が正しいか確認しています。これでは覚える

までに時間がかかってしまつたため「なんとか

ならないか？」と盲学校から相談があり、点

字をタイピングしたと同時に発音で文字を確認できる点字学習支援器具を開発しました。

援機器を利用する子どもたちが研究対象となり、成果がでたかどうかを判断するため、子どもたちに負担がかかってしまっています。基金のおかげで、昨年度は長野・松本盲学校に各10台ずつ点字学習支援器具を提供しました。「入力した点字の文字をその場で聞くことができる」と好評だそうです。

人生の最期に、自分の想いをお金に乗せて届ける。そのお金と想いが社会に循環することで、思いやりにあふれた社会が創られていく。そのためには私たち一人ひとりが、どんな未来になってほしいのか、日ごろから社会に関心をもち、自分に向き合うことが大切なのではないでしょうか。遺贈寄付とは決して特別なものではなく、そうした日常の延長線上にあるのかもしれない。

市民協働サポートセンターでは「遺贈寄付の入口に立つ！」と題した交流会を開催します。遺贈寄付の経験や知識を共有し、その可能性についてみんなで考えてみませんか？

★NPOカフェまんまる

「遺贈寄付の入口に立つ！」

日時..12月7日(木) 18時~20時

場所..もんぜんぶら座3階304会議室

料金..無料

共催..ながの協働ねっと

※詳細は8頁に



NPOステップアップ講座

「NPOの資源を獲得する!」

NPOの資源である「人」と「お金」に焦点を当て、課題や目指す姿を考える連続講座が始まりました。講師は、長年NPO業界で起業や事業再生に携わり、豊かな経験とユーモアたっぷりの田辺^{ゆたか}さん。「組織運営」をテーマにした第1回を7月23日にもんげんぶら座とオンラインで開催、NPOや住民自治協議会など10



団体15人が参加しました。講座は、「なぜ組織にするのか」という問いからスタート。参加者から「3人寄れば文殊の知恵」「社会の力を応援にしていきたい」などの意見が出ました。田辺さんは、「市民性を創り出し、増幅させるために組織であることが大切」とした上で、「企業や行政などさまざまな媒体と仲良くできるのがNPOの特徴」と強調しました。基礎知識を学んだ後は、自団体の棚卸しや目指す姿を明確にする「社会へのラブレターづくり」に取り組みました。悩みながらも真剣に取り組む参加者の姿が印象的でした。



講師の田辺さん

テーマごとに投げかけられる問いについて自ら考えることを共有、そして講義という流れで進んだ本講座。十人十色の考えを学び合った参加者からは、「自分たちの活動を多面的に深堀することができた」などの声が聞かれました。

「活動資金」をテーマにした第2回は10月1日に開催。こちらはHPなどで報告します。



参加者からも積極的に意見が出ました



SDGsまんまる

「わたしたちの考える平和」

8月8日、「わたしたちの考える平和」が開催され、NPO・教員・学生など19人が参加しました。インターン生の私やボランティアの学生も準備から運営まで関わり、平和について考えました。

市内で平和活動に取り組む「被爆体験を聴く会実行委員会」「長野空襲を語り継ぐ会」のほか、「西光寺」からの話を聞きました。活動者の話を聞くことができた貴重な体験で、「長野空襲を語り継ぐ会」のホームページの反響やアクセス方法に関する質問もあり、新しい情報を知ることができました。

それを受け、グループディスカッションでさらに考えを深めていきました。ディスカッションのテーマは「わたしたちの考える平和とは」と「長野から何ができる?」です。登壇者と参加者が対話しやすい距離感で、短い時間の中でもさまざまな考えを聞けたと思います。「平和」というマクロな視点に続き、「長

野から何ができる」というミクロな視点を考えることで具体性のある意見が出ました。各グループからの発表では、「国際交流したい」「自分の意思が大切」「物事の裏を想像する」など、ロシア・ウクライナの状況もあつて戦争を意識した意見が多く、興味深かったです。

企画・運営に関わった長野県立大学の大倉健輔さんは、「『無関心でいることの怖さ』と『当たり前を1度疑うこと』の2点が印象に残った。これらを意識して行動することはなかなか難しいが、小さなことから実践していきたい」と話しました。(清泉女学院大学 佐藤伽^か南)



「平和の木」に平和への想いを貼りました

#26

My
ストーリー

豊野まちづくり委員会

委員長 平澤 薫里さん

「豊野まちづくり委員会」は、「令和元年東日本台風（19号）」で被災した豊野地区住民の心の復興を支援し、自分たちの手でまちの未来を創り出そう」という思いから昨年7月に組織されました。

今年度委員長に就任した平澤薫里さんは、「住民一人ひとり、それぞれの思いを持っていくはず。それを引き出し、まとめ、つなげていくのが私の役目」と快活に話します。

爽やかな笑顔が印象的な平澤さんですが、先の台風で新築からわずか4年の自宅が大きく被災。その惨憺たる光景に絶望感が押し寄せました。でもすぐに気持ちを切り替え、未来を意識を向ける生活を決意しました。

父親所有の大型トラックで自宅の片づけが周りより早めに終わると、支援者として動き始めました。中学3年の時に豊野に移住して幼なじみと呼べる人はおらず、多くの人とつながりたいという思いもありました。「とよの福岡チーム集楽元快」の活動、「防災交流センターの検討委員会」

の立ち上げなどを経て、豊野



プロフィール

豊野在住。大学院卒業後は長野市のソフトウェア開発会社にシステムエンジニアとして入社。現在は、「ITエキスパート、メディカルトレーナー」の資格を活かした「Koko※Karak※Reset」を運営。夫、中学生と小学生の娘の4人家族。

まちづくり委員会への参加と今回の委員長就任につながります。

「行政だけに頼らず、住民が一体となって取り組んでこそ豊野の未来がある」と確信する平澤さん。「委員会のことを知らない人もいる。認知を進め、まちづくりに興味関心を持つてもらうためにも、住民アンケートを取ることから始めたい」と話します。災害時に受けた心の傷や、今後の暮らしへの不安が払拭できてこそ復興完了。そのために何より必要なのが「人と人とのつながり」だと何度も口にしました。

取材・執筆 市民ライター 佐藤ティ子



ねぽが行く! ☆

突撃
の

NPO

西後町テレビ



拠点の CREEKS が入るビルを背に
1 階はフェアトレード雑貨店 cublue

長野中央通りに面した「CREEKS」を
ングスペース「CREEKS」
ここを利用する経営者を中心に始
めた YouTube チャンネル
「西後町テレビ」が話題になって
います。
地域の良さだけでなく、地域の
課題解決につながる取り組みを発
信。第一弾では、フードロス削減
に向けて資源発掘と商品開発を行
った若者の挑戦として、川中島の
はねだし桃を使った「モモペチー
ノ」誕生秘話を配信しま
した。
「単に発信するツール
ではなく、自分の可能性
を試す場として関わって
いく人が増え、場所に集
まるヒトとヒト同士がつ
ながる。映像を通したコ
ミュニティがきっかけと
なり、地域がもっと豊か
になっていく」と立ち上
げメンバーの庄子卓真さ
ん（写真一番右）。これ
からどのような番組がア
ップされるか目が離せま
せん。

長野市西後町並1585リプロ表参道
CREEKS内
<https://www.youtube.com/@nishigochotv>

おやきや千代子 「誰にとっても優しいお店に」

三輪

今年4月に開店したおやきや千代子2号店。店主の小湊瑞希さんには知的障害のある兄と発達障害と診断された長男がいます。障害があると気楽にお店に入ることが難しいと感じていた小湊さん。障害のある人や子育て中の方がふらっと入れる優しいお店を目指して開店しました。子ども自身を取りやすいようにおやきの陳列棚を低くし、ベビーカーや車いすが入りやすいよう入口を改良しました。また、視覚障害者が自分で注文できるように拡大文字や点字メニューを用意し、必要だ



とわかるとすぐに動きまわります。この日は開店と同時に親子連れが来店し、子ども達は慣れた様子で畳の部屋にある玩具で遊び始めました。仕事や子育てに悩んでいる人が話しかけてくることもあるそうです。「子育てや障害者のための支援情報の集まる場所にもしたい」と話す小湊さん。こんな風に誰にとっても優しいお店が地域に広がることを期待したいです。

長野市三輪1丁目25-11 TEL 050-8885-4095
営業時間 9:30~16:00 定休日 日・祝日
子ども食堂（営業日毎日開催）



飯綱高原にあるグリーンヒルズ小学校3・4年生の児童たちは、今年度災害について多角的に学んでいます。調べ学習だけでなく、防災キャンプを体験したり、支援活動をしたボランティアから話を聞いたりしてきました。9月14日、松代復興応援実行委員会の曲尾正子さんと西澤淑恵さんが講師として同校を訪れました。「災害時に地域で助け合うことの大切さは理解できても、実際にそれがどのように機能するのか？」を学びます。冒頭、西澤さんは「みんなはおうちの近くの人に助けてって言える？」と質問。元気に手を挙げた子がいる一方、「顔はわかるけど話したことがない…」



西澤さんの話を興味深く聞く子どもたち

災害から見える 地域の助け合い

グリーンヒルズ小学校
×
松代復興応援実行委員会

という子もいました。西澤さんは被災直後の松代地区の動画や写真を共有、当時の様子を話しました。被災した小学校、泥だらけの家財道具、集められた災害ごみの山。子どもたちは熱心に聞き入っています。その後、被災当時のことをまとめた紙芝居を曲尾さんが披露。そこには、地域の人たちが互いに助け合ったエピソードがたくさん盛り込まれていました。最後は委員会が作成した防災すごろくをやってみました。コマが止まったマスにはクイズもあり、たくさんの方が学べます。全員が無事ゴール！楽しみながらさらに深い学びにつながったようです。



市民協働サポートセンター スケジュール

2023年 10月 ▶ 12月



タイトル	日 時	会場／費用	内 容
NPO 初歩講座 「NPO ってなんだ？」	11 月 22 日 (水) 18:30 ~ 20:30	場所: 市民協働サポートセンター 参加費: 300 円 定員: 5 人	ボランティアって何? NPO ってなんだ?などの基礎知識から、NPO 法人の成り立ちや設立についてお話しします。市内の活動紹介もあります。誰でも参加可。
地域まんまる 地区自慢大会 「おらほの自慢 聞いとくらいつ！」 	10 月 24 日 (火) 13:00 ~ 17:00 (予定)	市役所講堂 (第二庁舎 10 階) 参加費: 無料 定員: 50 人 対象: 関心のある NPO・企業・個人など誰でも	長野市 32 地区にある住民自治協議会は、地域の特性や課題に合わせた独自の事業を展開しています。それぞれ工夫を凝らして行う事業も、市民活動団体や企業などとのつながりでさらに深まり広がります。各地区の自慢の事業を聞き、つながりを作りましょう!!
NPO カフェまんまる 「遺贈寄付の入り口に立つ！」 	12 月 7 日 (木) 18:00 ~ 20:00	もんぜんぶら座 3 階 304 会議室 参加費: 無料 定員: 30 人 対象: 関心のある市民活動団体・土業・個人など	「遺贈寄付」を知っていますか? 社会貢献活動に役立てることなどを目的に、遺言によって財産の全てまたは一部を特定の個人や団体などに遺すことです。交流会では、「遺贈寄付とは何か?」という基本を学び、実際に遺贈寄付を受けたことのある団体などから経験談を聞きます。 協力: NPO 法人ライフデザインセンター、公益財団法人長野県みらい基金 (予定) 共催: ながの協働ねっと
まんまるボランティアサロン ①ボランティアさん集まれ! ②機関誌発送サロン	①毎月第 4 火曜日 10:30 ~ 12:00 ②12 月 27 日 (水) 10:30 ~ 13:00	市民協働サポートセンター 参加費: 無料 対象: 誰でも	まんまる開催のボランティアサロンです。「誰か」や「自分」のために、楽しく無理なくボランティアをしませんか? 10 代から 80 代までいろんな人が活躍しています! ①封筒や紙バックをカレンダーや新聞紙で作るなど、その日によって作業は変わります。 ②3 ヶ月に 1 回発行するセンターの機関誌を発送する作業です。封筒へのラベル貼り、機関誌やチラシの封入をします。

開催方法などが変更になる可能性があります。ホームページやフェイスブックでも随時情報発信しています。あわせてご確認ください。

まんまるの 本棚から ピックアップ

.....→

信州に学ぶ 地域イノベーション

長野県立大学グローバルマネジメント学部 編
中央経済社

信州の課題と資源を掛け合わせて成功させてきたイノベーションの事例を丁寧に紹介。その成功のカギは「人」だった。

KOSODATE QUEST (子育てクエスト)

一般社団法人
信州子育てみらいネット [著]
みなみ出版

RPG風のコミックで、子育てを経験を積みながら世界を救う物語?! 保育園経営者だからこその子育ての秘訣やあるあるエピソードが満載です。

まんまる はココに!

cafe 茶日居

住宅街の中にある隠れ家のようなcafe茶日居(ちゃっぴー)。「地域の人が孤立しないで気軽にしゃべりする場所を作りたい」と退職後に開店した竹村夫妻。店内には和風の小物が並び、窓からは庭やミニ菜園が見え、一人でも複数でも落ち着いて過ごせる席が用意されています。月替わりのセットメニューには自家製野菜を使うこともあり、身体にも優しい食事ができます。

長野市栗田445 TEL 090-6507-4336

営業時間 木金土(祝日休) 11:30~17:00 (LO16:00)



気さくに話せるオーナー夫妻

発行 / 市民協働サポートセンター まんまる (長野市)

TEL:026-223-0051 FAX:026-223-0052

〒380-0835 長野市新田町 1485-1 もんぜんぶら座 3F

e-mail: npo@nagano-shimin.net

ホームページ: <https://nagano-shimin.net/>



編集後記

最近の悩み(?)は、スタッフTと洋服コーディネーターが被りがちなこと。年齢も個性も違う私たち。示し合っているわけではないのになぜそうなるのか? 双子コードを見たい人はまんまるへ! ただし、不定期です(笑)(スタッフM)

